

富津市立保育所自己評価書

(吉野保育所)

- | | | |
|---|---|---------|
| A | → | 大変よい |
| B | → | よい |
| C | → | 一部検討を要す |
| D | → | 改善を要す |

評価期間 令和6年4月～令和7年2月

令和7年3月

項目	内 容	評価 A.B.C.D	評価の根拠・改善策等
生命の保持・健康	家庭との連携を密にし、嘱託医との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境 の維持及び向上に努める。	B	・子どもの発達で気になる事等、保護者から相談を受けた際は、話を聞いたり、関係機関を勧めたりした。 ・怪我をした場合は、報告書に記録して、職員に周知したり、危険箇所を見直したりして怪我防止に努めた。 ・年 2 回の健康診断を受け、嘱託医と連携をとった。
	愛情豊かな受容の下で、安定感を持って生活し、食事や午睡、遊びと休息など、快適な生活のリズムが形成される。	A	・子どもの生活リズムを把握したうえで無理なく生活リズムを整えていった。 ・情緒が不安定な時は、一対一で関わり、安心して過ごせるように関わった。
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	A	・子ども一人ひとりの興味関心を大事に関わっていたので、保育所生活を楽しんでいた。 ・自分達で目標を決め挑戦をしていた。保育士は背中を押したり、悔しい気持ちに付き合ったりしていたのであきらめず取り組むことができた。(リズム、縄跳び、跳び

			箱、登り棒、ブランコ等) ・未満児においても、自分の力でやろうとする小さな挑戦をできるよう見逃さず、関わった
人間関係	保育士等に思いや行動を受け止めてもらい、応答的な関わりの中で、安定感をもって過ごす。	A	・子どもの本音を理解して関わっていたので、安定して過ごせていた。また、担任だけではなく、他クラスの職員も関わっていたので、色々な気持ちを出す事ができ、時には違った角度から子どもを見る事が出来ていた。
	生活や遊びの中で、身近な人への関心をもち、真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。	A	・子どもが身近な人の様子を見て、再現することを楽しんでいた。保育士は、子どものごっこ遊びに入り、一緒に楽しさを共有した。 ・ごっこ遊びが広がって生活発表会の劇遊び等、に繋がっていた。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	A	・まずは、自分の思った事が言えるように関わり、相手の言い分も聞けるよう援助していた。また、子ども達同士で話し合いができるよう見守りながら人とのつながりを持っていった。また、年齢や発達

			によって言葉での表現ができない場合はその子の気持ちを汲み取って代弁したので自己表現ができている
	生活や遊びの中で決まりの大切さに気づき、守ろうとする。	A	・子ども達に遊びを教えるのではなく、自分達で経験しながら遊びを作り上げることを大切にしているので、遊びの中でルールがないと、遊びづらいことに気づき、友だちと相談してルール作りをしていた。
環境	安全で活動しやすい環境の下で探索活動を通して五感の働きを豊かにする。	B	・自然の中で安全に活動できるよう、職員が自然環境保育安全管理研修等に参加した。 ・自然事象（風、雲、寒い、氷、暖かい等）を感じる経験ができるようにしてきたので氷作りに挑戦したり、つらら探しに行ったりした。 ・散歩に出かけザリガニを見つけたり、木の枝や実を集めたりしていた。もう少し散歩の回数を増やし、自然を身近に感じられるよう努めたい。
	生活や遊びの経験を重ねながら、形、色、大きさ、量、音などの物の性質に気付いていく。	A	・色々な素材に触れ、自分のイメージした通りの物を作っ

		ていた。廃材や自然物等、様々な形、大きさ等あるので子ども達が工夫して作り、作品を見せたり、飾ったりしていた。また、楽器のようなものも作り、音を出して友達と喜んでいた。 ・保育士は、子どもが使いたい時に使えるよう環境を整えていた。また、先回りをしないで子どもが気づくように関わっていたので、自由な発想ができていた。
自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	A	・自然に触れられるよう身近にあるので、タイミングを逃さないよう配慮している。子ども達のやってみよう。試してみようを大事にしている。 ・(例) 朝、登所して園庭を見渡すと霜を見つけた子ども達は「何だろう？」と触ってみた。霜ができるなら氷も作ればできると思い、氷作りが始まる。また、水たまりの氷を見つけ「氷を水につければ冷たいもの同士だから溶けない」と思い試してみる。

	日常生活の中で、数量や図形、標識や文字などに 関心をもつ。	A	・友達の名前の文字探しごっこ、かるた遊び、当番活動、ポスター等、日常生活の中で子ども達が自然に興味関心を持ちながら遊んでいた。
言葉	保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自分の要求や気持ちを伝えようとする。	A	・安心して過ごせる中で、応答的な関わりをしているため、自分の気持ちが伝えられるようになってきている。 ・言葉で伝わらない時は、表情や行動等、その子からの発信を感じ取り、関わっている。
	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして言葉の感覚を豊かにする。	A	・毎日、絵本の読み聞かせをしているのでお気に入りの絵本ができています。お気に入りの絵本を繰り返し読むことで気持ちも安定し心の栄養になっている。また、お気に入りの絵本の好きな場面では、内容を覚えていて保育士と一緒に声に出して読んでいます。
	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。	A	・言葉で表現できない子に対して「〇〇って言ってるんじゃない。」等、友達が感じ取って代弁している姿が見られる。人と人がつながろうとする

表現			気持ちが育っている。 ・自分のお気に入りの防空壕を友達に話したことをきっかけに広がっていき、「行ってみよう」と、子ども達が園外保育を計画する。
	生活の中で必要な言葉の意味や使い方を知る。	A	・色々な経験を積む中でその場に合った必要な言葉が出るようになった。 ・話す事が嫌にならないように肯定的に話を聞く。また、友達に向けた言葉がきつい時は、傷ついた気持ちを伝えたり、言葉のセレクトが良い時に「今の言い方良かったね。」と声かけたりした。 ・子どもが発信して保育士が応答することを大切にしている。
	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れ五感を使い楽しむ。	A	・水たまり、落ち葉、泥んこ、等、身近にある自然を活用して思いきり遊ばせている。子ども達は「落ち葉が、サクサクして気持ちいいね。寝転がろう」等、自分の気持ちを表現していた。
	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わう。	A	・音楽に合わせて体を動かす。(リズム、体操、わらべう)

			た、縄跳び)友達と遊ぶことを楽しんだり、色々な動きに挑戦したりしながら体を動かすことを楽しんでいた。
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。	A	・絵の具、ボディペインティング、草木染め等を通して不思議に思ったり、感触を楽しんだりしていた。 ・子どもが、排水溝の上を車のおもちゃを走らせて遊んでいる時に、偶然出た音が楽しく繰り返し遊んでいた。偶然見つけたことを大切に関わっていた。
	生活の中で、保育士等や友達と感動を共有することや伝え合う楽しさを味わう。	A	・自分の発見したことを誰かに聞いてもらい、伝わる楽しさを感じている。 ・友達ができたことを自分のことのように喜ぶ。
保護者への支援	一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A	・保育参加を年 2 回実施した。1 回目は 6 月の保育所に慣れた時期に様子をみていただき、2 回目は 10 月の保育参加を体験してもらい普段の様子を見てもらった。保護者からの情報を元に出かけて行き、おみこし作りを見せていただき、完成を見る事

			ができ、子ども達の印象に残る体験となった。 ・個別面談を行ったり、保護者からの相談を受けたりして、共に成長を喜び合う事ができた。
	家庭状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A	・保育日誌、児童票、療育計画、ドキュメンテーション等に記録している。 ・園児、家庭の状況に合わせたカリキュラムを作成し実践に活かしている。
	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	A	・送迎時に保護者が話しやすいよう職員が環境に配慮した。 ・保護者に“保育所に関する利用者アンケート”に協力いただき、意見や要望等を聞き、今後の保育に役立てた。
行事	行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。	A	・子どもの興味・関心のあるものを活かし展開した。行事の中で何を育てたいか、何を経験させたいか意味を考え、季節や伝統なども大切にしておこなった。
	保護者の願いや意見を取り入れている。	A	・働く親にとって参加しやすい時間帯にしたことで参

			加人数が増えた。 ・子どもの様子を見てもらいたいため保育参加等、期間を長く設け参加しやすいようにした。また、その中で都合がつかない時は相談しながら別日に参加できるようにした。
	計画・実施・評価・改善の体制をとっている	A	・子どもが主体的に行事に取り組めるように、日々の保育から進めていき、職員間で共通理解できるよう会議を持ち計画して、進捗状況を確認しながら実施した。また、職員間で振り返りをして反省・改善点を見出し、今後に活かしている。
その他	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。	A	個人情報の適正な取り扱いを職員全員に周知している。また、適切に保管している。
	園内研修を実施している。	A	・園内研修では、「人とつながる」「レジリエンス」「水遊び中の事故防止」「災害時の対応」「子どもの声を聴く」等研修を行い職員の共通理解、保育の向上につなげた。

	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。	A	・写真付き記録の活用や掲示板、連絡帳で子どもの活動の様子や感染症の流行を知らせ、予防について迅速に知らせることができた。
--	----------------------------------	----------	---